

➤ 1日 火曜

ホセア

1:1 ユダの王ウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤの時代、イスラエルの王、ヨアシュの子ヤロブアムの時代に、ベエリの子ホセアにあった【主】のことば。

1:2 【主】がホセアに語られたことのはじめ。【主】はホセアに言われた。「行って、姦淫の女と姦淫の子らを引き取れ。この国は【主】に背を向け、淫行にふけているからだ。」

1:3 彼は行って、ディブライムの娘ゴメルを妻とした。彼女は身ごもって、彼に男の子を産んだ。

1:4 【主】は彼に言われた。「その子をイズレエルと名づけよ。しばらくすれば、わたしがイズレエルでの流血のゆえにエフーの家を罰し、イスラエルの家の王国を終わらせるからだ。」

1:5 その日、わたしはイズレエルの平原で、イスラエルの弓を折る。」

1:6 ゴメルはまた身ごもって、女の子を産んだ。主は彼に言われた。「その子をロ・ルハマと名づけよ。わたしはもう二度とイスラエルの家をあわれむことはなく、決して彼らを赦さないからだ。」

1:7 しかし、わたしはユダの家をあわれみ、彼らの神、【主】として、彼らを救う。ただし、弓、剣、戦い、あるいは馬、騎兵によって救うのではない。」

1:8 彼女はロ・ルハマを乳離れさせると、身ごもって男の子を産んだ。

1:9 主は言われた。「その子をロ・アンミと名づけよ。あなたがたはわたしの民ではなく、わたしはあなたがたの神ではないからだ。」



1:10 イスラエルの子らの数は、量ることも数えることもできない海の砂のようになる。「あなたがたはわたしの民ではない」と言われたその場所で、彼らは「生ける神の子ら」と言われる。

1:11 ユダの人々とイスラエルの人々は一つに集められ、一人のかしらを立ててその地から上って来る。まことに、イズレエルの日は大いなるものとなる。

ホセアは自分の生涯、特に結婚において体験的に神様から語られて、それを民に預言した人です。「姦淫の女」というのは、すでに姦淫を犯していたのか、または姦淫の性質があり将来そうなるというのかは、議論が分かれるところです。いずれにしてもホセアは、結婚した相手から裏切られる苦しみを経験します。しかしそれによって、民から裏切られる神様の痛みと、それを赦す無限の愛を経験するのです。

「姦淫の女」とは、神様意外のものを拝んだり、または従ったりする、私たち人間の信仰的姦淫を示唆するものです。姦淫という行為は醜いイメージがありますが、神ならぬものを神として慕うなら、それも醜い姦淫なのだということを知っておくべきでしょう。

偶像を拝むことはないでしょうが、神様意外のものを神のように慕っているようなところがないかどうか、謙遜に考えてみましょう。私を造り、私のために十字架にまでかかってくださった、主イエスへの愛が本物であり続けるために…

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

